



よるい  
甲を着た古墳人だより



公益財団法人  
群馬県埋蔵文化財調査事業団

## 「首飾りの古墳人」の調査が進んでいます。

昨年「甲を着た古墳人」が発見された 31 号溝の西側 16 m のところで、今年 4 月、首飾りを着けた成人女性がみつかりました。この女性も甲を着た古墳人と同じ火砕流に被災していました。「首飾りの古墳人」は、ほぼ全身の骨格が残っていたことから、左足を軸にして反時計回りに回転し、頭を東に向けてうつぶせに倒れたことがわかりました。おそらく、西側の榛名山から襲ってきた火砕流を避けるようにして倒れたものと思われる。



うつぶせに倒れた首飾りの古墳人

### 調査はこうして進められた

調査は、九州大学大学院の田中良之教授を中心とした調査チームによって進められ、詳細な記録が作成されました。調査によって、性別や身長はもとより、倒れたときの動きまでが明らかになってきました。



### ■首飾りの古墳人の人物像は？

大腿骨は甲を着た古墳人と比べて細く短いことや骨盤の様子から女性と判断され、身長は大腿骨の長さから143cm前後と推定されています。歯には歯石が残っていることや、骨盤などから成人と考えられます。



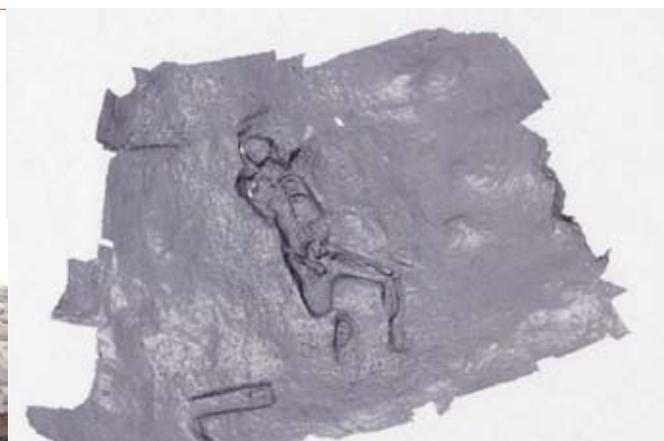
### ■首飾りを着けていた！

女性の首の部分から、緑色の石で作られた管玉と青色のガラス小玉が発見されました。ガラス小玉は径3mmほどの小さなもので深い青色をしています。これらの玉は出土状況から、管玉とガラス小玉を組み合わせた首飾りと考えられます。



### ■立体情報も記録した！

人骨の発見された状態は、図面や写真として記録したほかに、三次元計測を行いレプリカ製作もできる立体的なデータも残しました。



### ■切り取りと搬送

「首飾りの古墳人」も周囲の土ごと発泡ウレタンで保護し、埋蔵文化財調査事業団の保存処理作業室に運びこみました。現在、詳細な調査が行われており、年齢などもわかることでしょう。



当事業団ホームページをご覧ください。 <http://www.gunmaibun.org/>

